

書道作品商業科「ビジネス情報」学習指導案

実施日	平成24年 5月 1日 (火) 5限			場所	特別棟 2階 パソコン室
対象	2年情報コース (男子: 15名 女子: 12名 計27名)				
教科書	「ビジネス情報」実教出版	単位数	2	指導者	後藤 睦男 ㊞・仮屋園 心 ㊞
単元名	表計算ソフトウェアの活用 (よく使う関数の利用)				
単元について	教材観	表計算ソフトウェアの関数の利用について、利用方法を習得させるだけでなく、関数の内容の説明も行い、生徒に考察させることを通して、主体的に表計算ソフトウェアを活用できる能力と態度を育成したい。			
	生徒観	1年次の教科「情報」において、基礎的な知識や技術を理解しており、指導計画より早い学習進度である。授業への取り組みは、発言や質問の回数が多く、積極的である。一方、パソコンへの入力や問題を解く速さに個人差がある。			
	指導観	本単元においては、表計算ソフトウェアの関数について学ぶ。操作方法の習得だけでなく、いつその関数を使用するのか、どのような意味合いを持った関数なのか理解させる。 本授業では、関数について理解させることを主目的とし、あらかじめ文字や数値が入力されたファイルを準備しておき、関数の操作方法、利用の仕方について指導する。			
単元目標	<p>(1) 表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作ができる。</p> <p>(2) 関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を身につける。</p> <p>(3) 合計、平均、最大値、最小値、判定、件数カウント、端数処理などの関数を利用できる。</p> <p>(4) データの特徴に適したグラフを作成できる。</p>				
指導計画	<p>(1) エクセルの基本操作 …… 2</p> <p>(2) 合計 (SUM関数)、平均 (AVERAGE関数) 最大値 (MAX関数)、最小値 (MIN関数) の利用 …… 2</p> <p>(3) 判定 (IF関数) の利用 …… 2 (本時1/2)</p> <p>(4) 件数のカウント (COUNT関数、COUNTA関数) の利用 …… 1</p> <p>(5) 四捨五入 (ROUND関数)、切り上げ (ROUNDUP関数) 切り下げ (ROUNDDOWN関数) の利用 …… 2</p> <p>(6) グラフの作成 …… 1</p>				
評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	表計算ソフトウェアの機能や特徴について関心を持ち考えようとしている。 表計算ソフトウェアでデータを効率よく処理するための機能について関心を持ち考えようとしている。	表計算ソフトウェアの機能を用いてデータを適切な表に表すことができる。 データを効率よく処理するための適切な方法を見出すことができる。	表計算ソフトウェアの基本的な操作をもとに条件に合う式や関数などを用いて表を作成することができる。 データに見合ったグラフを作成することができる。	表計算ソフトウェアの機能や特徴について理解している。 表計算ソフトウェアでデータをグラフ化してわかりやすく表現することができる。	

本時の目標	(1) I F関数について理解させる。 (2) 論理式, 真の場合, 偽の場合について理解させ, 正確な情報を入力させる。 (3) 比較演算子の違いを理解させる。			
使用教材	情報処理検定 模擬試験問題集3級 (実教出版)			
学習の展開				
段階	学習内容	指導内容 (指導上の留意点)	時間	評価規準
導 入	本時の学習内容を確認し 前回までの関数の復習を行う。	パワーポイント (以下PP) を 利用し, 合計・平均・最大値・最 小値を求める関数を復習させる。 ファイル「実践例題3級」を開 き, Sheet「実践例題」の指 定したセルを完成させる。	10分	表計算ソフトウェア の関数に興味関心を持 っているか。(関心・意 欲・態度)
展 開	I F関数とは, 指定した条件 によって異なる処理をさせる 場合に使用する関数であるこ とを理解する。	問題集p41の処理条件3を確 認し, Sheet「実践例題」入 場率を算出させる。 問題集p41の処理条件4を確 認し, I F関数の説明に導く。	5分	条件に合う式や関数 を利用できる。(技能・ 表現)
	論理式, 比較演算子について 理解する。	PPを利用し, 例題を通し論理 式・比較演算子について説明する。 問題集p22②比較演算子にマ ーカーさせる。	10分	表計算ソフトウェア の機能や特徴について 関心を持ち考えようと している。(関心・意 欲・態度)
	真の場合, 偽の場合について 理解する。	PPを利用し, 例題を通し真の 場合, 偽の場合について説明する。	10分	
	例題1を完成する。	例題1について説明する。 I F関数の入力方法について再 度, 確認しながら説明する。	10分	表計算ソフトウェア の機能を用いてデータ を適切な表に表すこと ができる。(思考・判断)
	問題演習を行う。 実践例題を完成する。(全員) 例題2, 例題3を解答する。 (個人)	実践例題について説明する。 机間巡視を行い, 実習状況を確認する。 生徒個々の学習進度に応じて例 題2, 例題3に取り組みさせる。		表計算ソフトウェア の機能や特徴について 理解している。 (知識・理解)
ま と め	本時の学習内容を振り返る。	本時のまとめを行い, 理解を深 めさせる。	5分	本時の内容を理解で きたか。(知識・理解)
I C T機器 の利用	(1) I F関数 (論理式, 真の場合, 偽の場合) について理解度が深まる。 (2) プレゼンテーションを用いて説明することで, 授業への興味関心を育てることができる。			
本時の評価	(1) I F関数の意味と利用方法を理解することができたか。 (2) 実践例題と例題1を全員が完成させることができたか。			